

宇和島市 御中

# 宇和島地区公共交通リ・デザイン調査 ご報告書

## ■調査概要



住民アンケート

N=677件



現地ヒアリング等

N=504件

※住民アンケート全体件数1,914件うち240件は郵便番号未記入や回答内容の不備・分析不可な状態

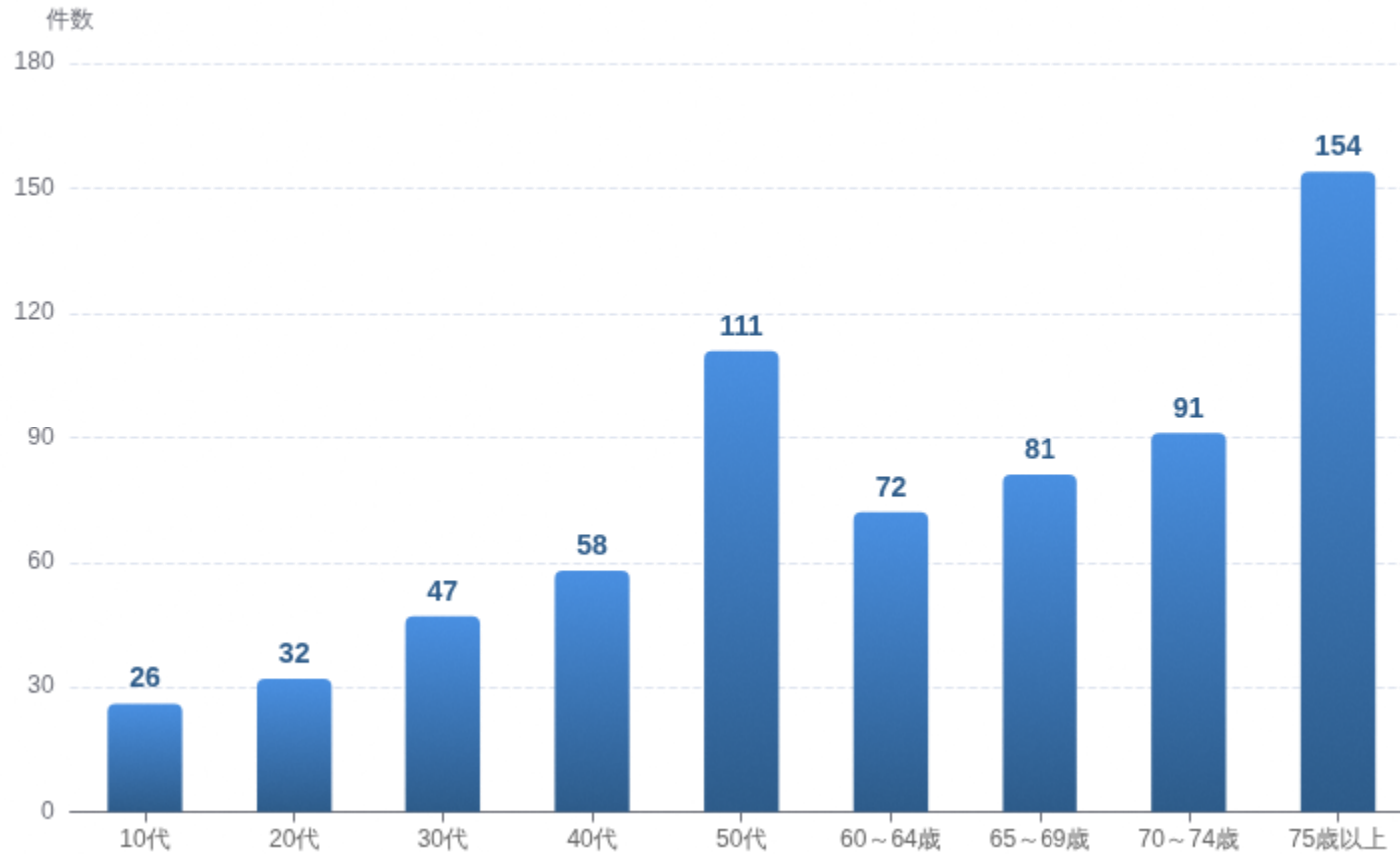
2026年4月3日

---

# 回答者の傾向

宇和島地区 住民アンケート結果 (N=677)

## 年代別回答数分布 (件)



分析対象件数

677件

### 回答構成のポイント

75歳以上が最も多く、全体の約23% (154件) を占める。

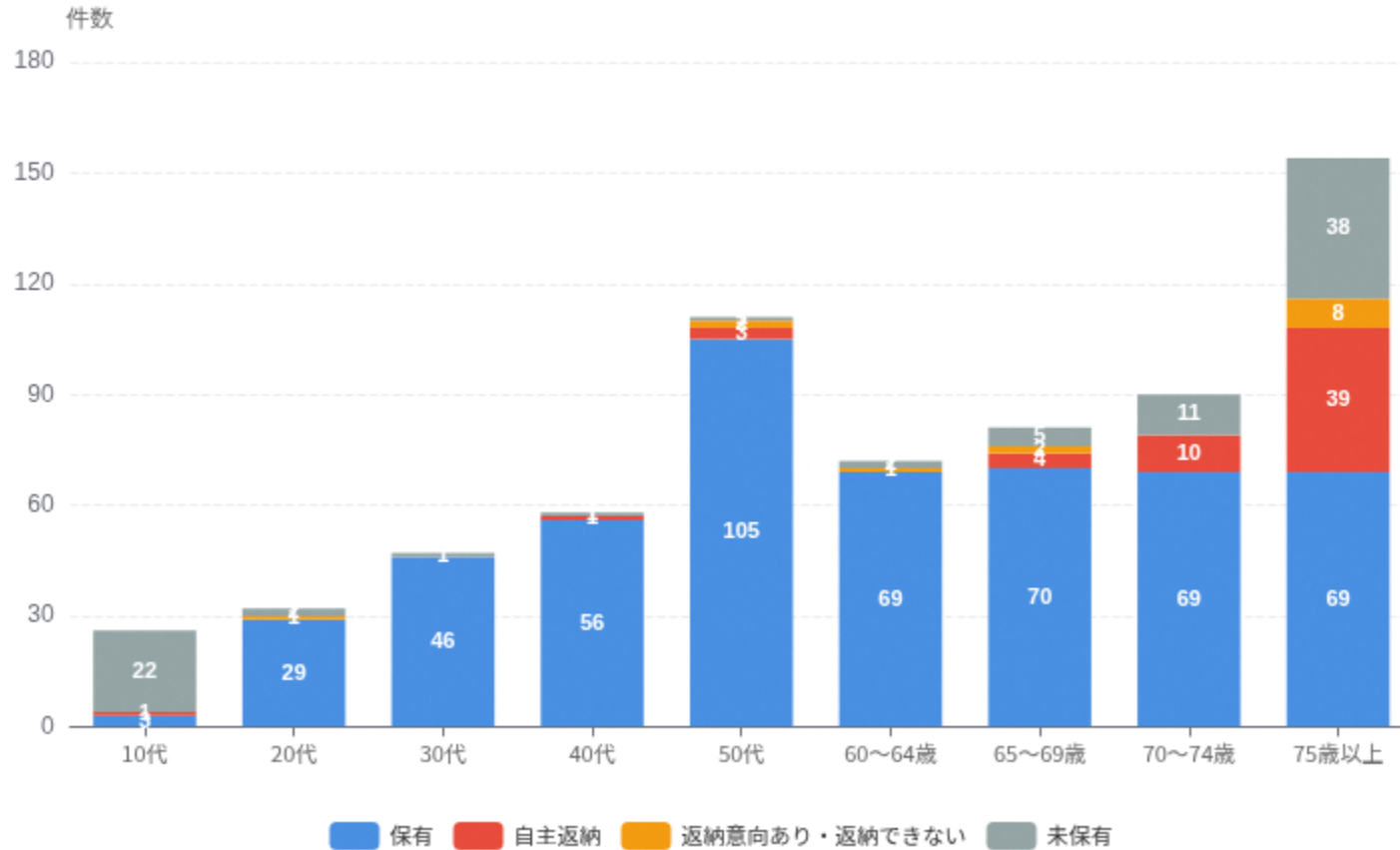
次いで50代 (111件) の回答が多く、現役世代の意見も一定数反映されている。

65歳以上の高齢層合計は326件で、全体の約48%に達しており、高齢者の移動課題が浮き彫りになりやすい構成。

# 年代別\_運転免許保有状況

宇和島地区 住民アンケート結果 (N=677)

## 年代別運転免許保有状況 (件)



🚗 75歳以上の免許自主返納状況

自主返納者 **39** 件 (回答の約25%)

### 免許保有の傾向

75歳以上では、39件が自主返納済みで、さらに8件が返納意向を持ちながらも移動手段確保の問題で返納できていない。

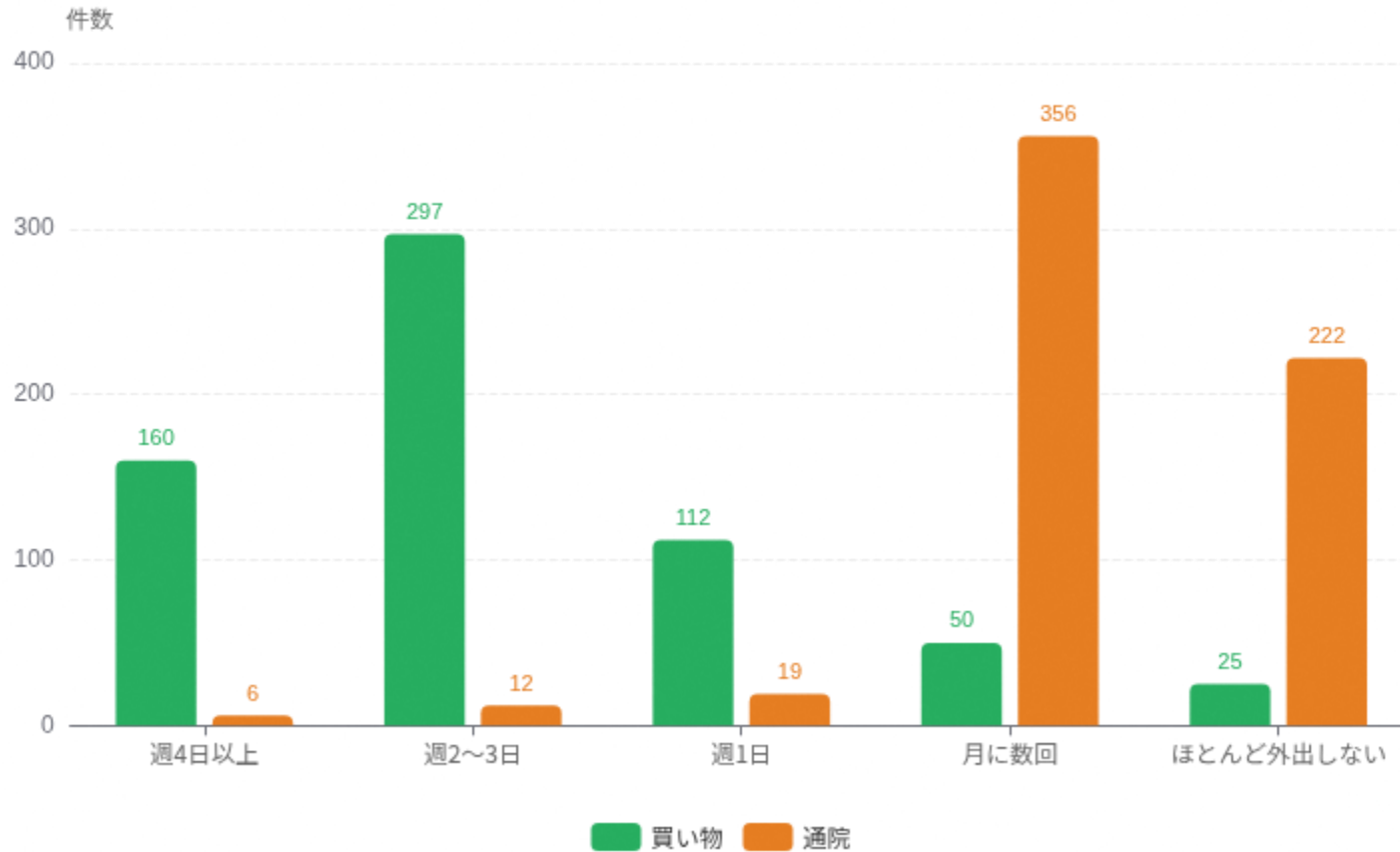
70代前半までは高い保有率を維持しているが、70~74歳でも10件の自主返納が見られる。

現役世代 (20代~60代) は大多数が免許を保有しており、生活における自動車依存度の高さがうかがえる。

# 外出頻度（目的別）

宇和島地区 住民アンケート結果（N=677）

## 目的別外出頻度比較（件）



🛒 買い物の外出頻度

週2回以上 **457** 件（約71%）

### 目的による頻度の違い

買い物は「週2~3日」が297件と最多で、次いで「週4日以上」が160件。週2回以上の外出が過半数を占め、日常生活の中心となっている。

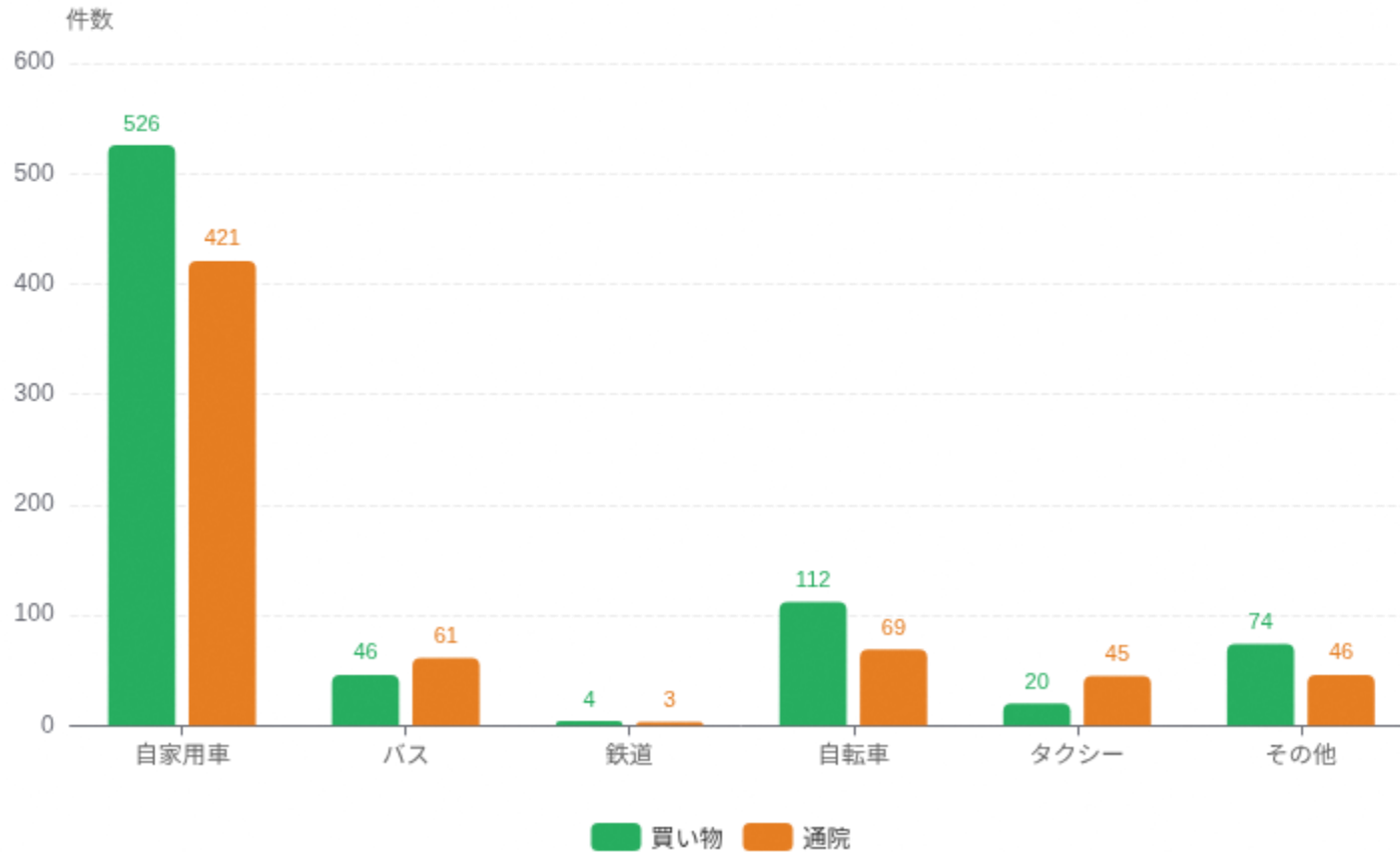
通院は「月に数回」が356件と圧倒的に多く、高頻度の外出目的ではないことが明確。

通院目的では「ほとんど外出しない」も222件と多く、定期通院のない層も一定数存在する。

# 移動手段

宇和島地区 住民アンケート結果 (N=677)

## 目的別移動手段比較 (件)



🚗 自家用車の利用割合 (買い物)

利用者数 **526** 件

買い物移動の約7割を占め、圧倒的な主要手段

## 移動手段の特徴

自家用車への依存度が極めて高く、買い物で526件、通院でも421件と他手段を圧倒している。

自転車は買い物で112件と一定の利用があるが、通院では69件に減少する。

公共交通 (バス・鉄道) の利用は限定的。バスは通院で61件とやや増えるが、自家用車の1割強にとどまる。

# 外出目的×交通手段：自家用車依存の可視化

宇和島地区 住民アンケート結果 ※複数回答のため、各行の合計は回答者数（N）と一致しません

目的 \ 手段	自家用車	バス	タクシー	鉄道	自転車	その他
買い物	526	46	20	4	112	74
通院	421	61	45	3	69	46
通勤	252	17	7	5	66	62
趣味・娯楽	368	31	9	8	51	50
習い事	357	17	18	2	38	56
通学	47	17	2	1	22	31

※その他：家族送迎、徒歩などを含む

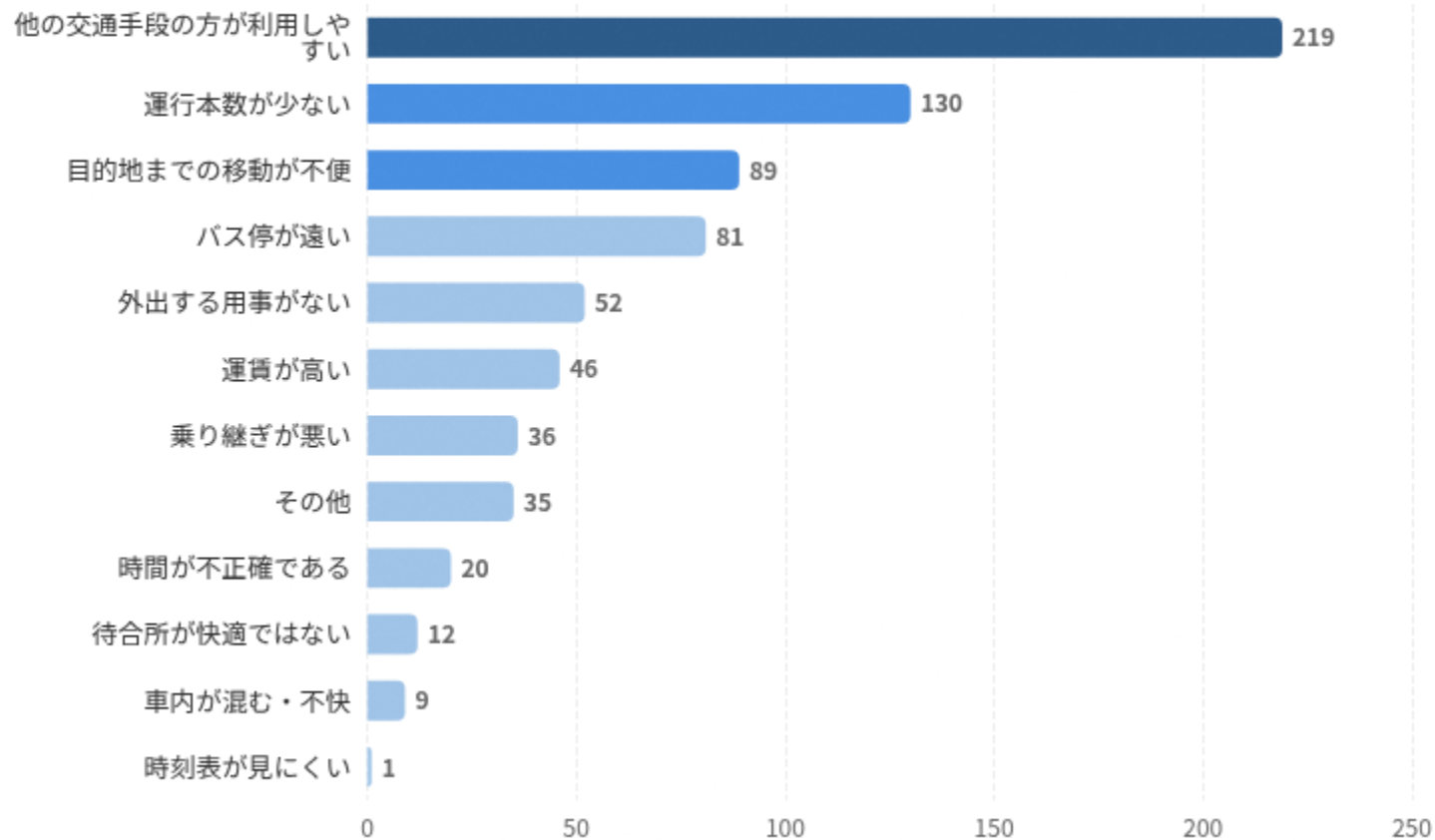
## 🔍 集計からの主な所見

全目的で自家用車への依存が高水準にある一方、通院・通学ではバスの利用比率が相対的に高めである。  
鉄道利用は趣味・娯楽（8件）などで一部見られるが全体的に限定的。自転車利用は買い物・通勤で一定規模がある。

# バスを利用しない理由

宇和島地区 住民アンケート結果 (N=677)

## バスを利用しない理由 (回答件数)



### ! 最多理由

他の交通手段の方が利用しやすい **219** 件

自家用車などの代替手段が優位にある状況

### 上位5理由 (件数)

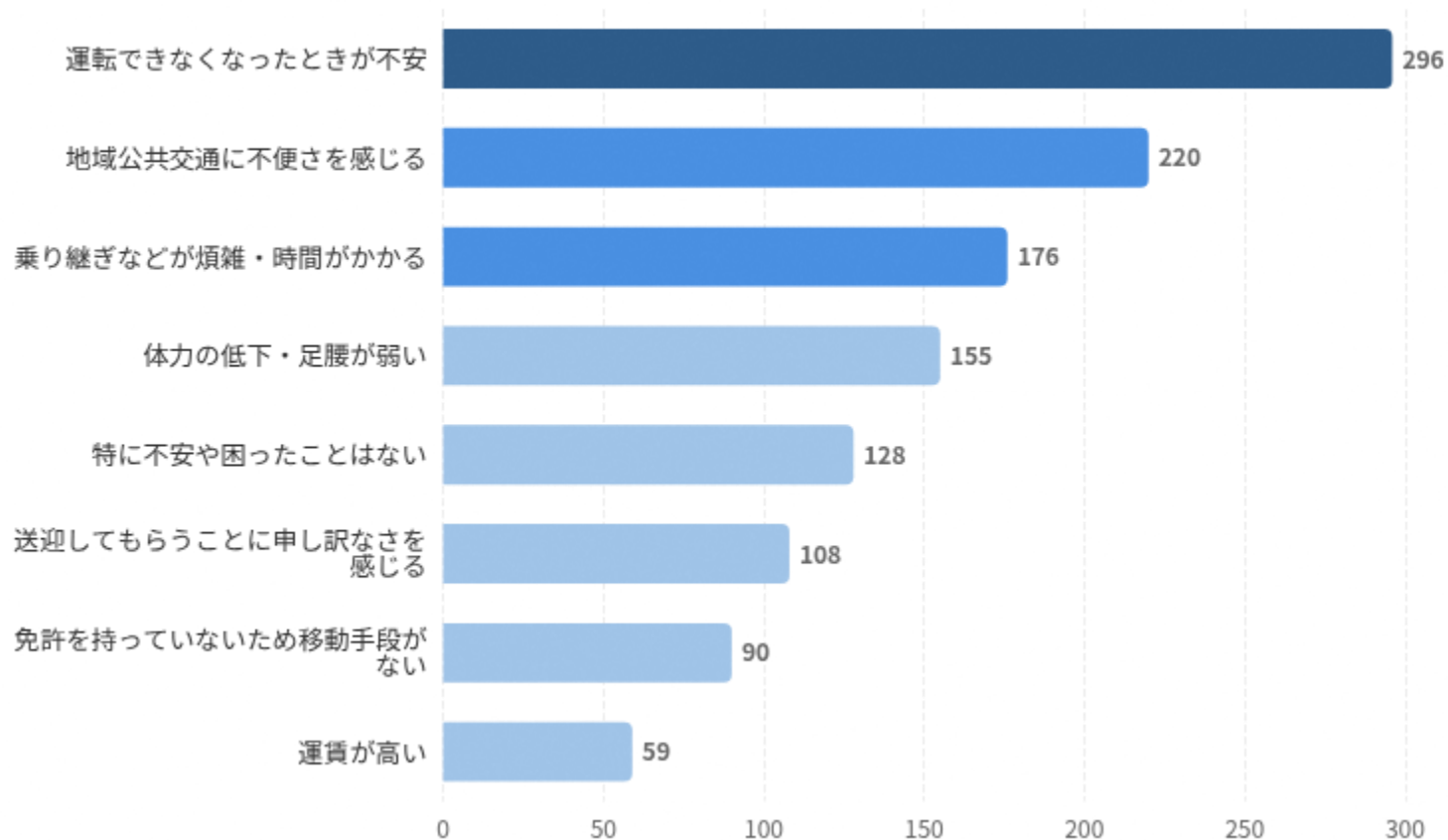
順位	理由	件数
1	他の交通手段の方が利用しやすい	219
2	運行本数が少ない	130
3	目的地までの移動が不便	89
4	バス停が遠い	81
5	外出する用事がない	52

「運行本数が少ない」「バス停が遠い」といった利便性に関する不満も上位を占めており、サービスレベルの改善要望が顕在化している。

# 外出の不安・困りごと

宇和島地区 住民アンケート結果 (N=677)

外出の不安・困りごと (回答件数)



! 最多回答

運転できなくなったときが不安 **296** 件

将来の移動手段喪失に対する強い懸念

上位5項目 (件数)

順位	回答内容	件数
1	運転できなくなったときが不安	296
2	地域公共交通に不便さを感じる	220
3	乗り継ぎなどが煩雑・時間がかかる	176
4	体力の低下・足腰が弱い	155
5	特に不安や困ったことはない	128

「運転への不安」が最も多く、次いで「公共交通の不便さ」「乗り継ぎの煩雑さ」が挙がっており、公共交通が自家用車の代替として十分に機能していない現状への不安が見られる。

# 現地でのお声（抜粋）

## 👤 将来の不安

- 🗨️ 送迎がないと外出できないから、気軽には出かけられない
- 🗨️ 免許返納は考えるが、自由に移動ができなくなる不安がある
- 🗨️ 車に乗れなくなった後が不安。タクシーも呼びにくい
- 🗨️ マイカーに乗れるうちは困らないが、免許返納した後を考えると不安

## ⚠️ 公共交通の不満

- 🗨️ タクシーが予約しづらく通院に支障（雨天時は特に困難）
- 🗨️ バス便数が少なく使いにくい。障がいがありタクシーを使うが負担が大きい
- 🗨️ 何社にも電話しないとタクシーの手配ができない
- 🗨️ タクシーが呼べず通院で困ったことが数回ある

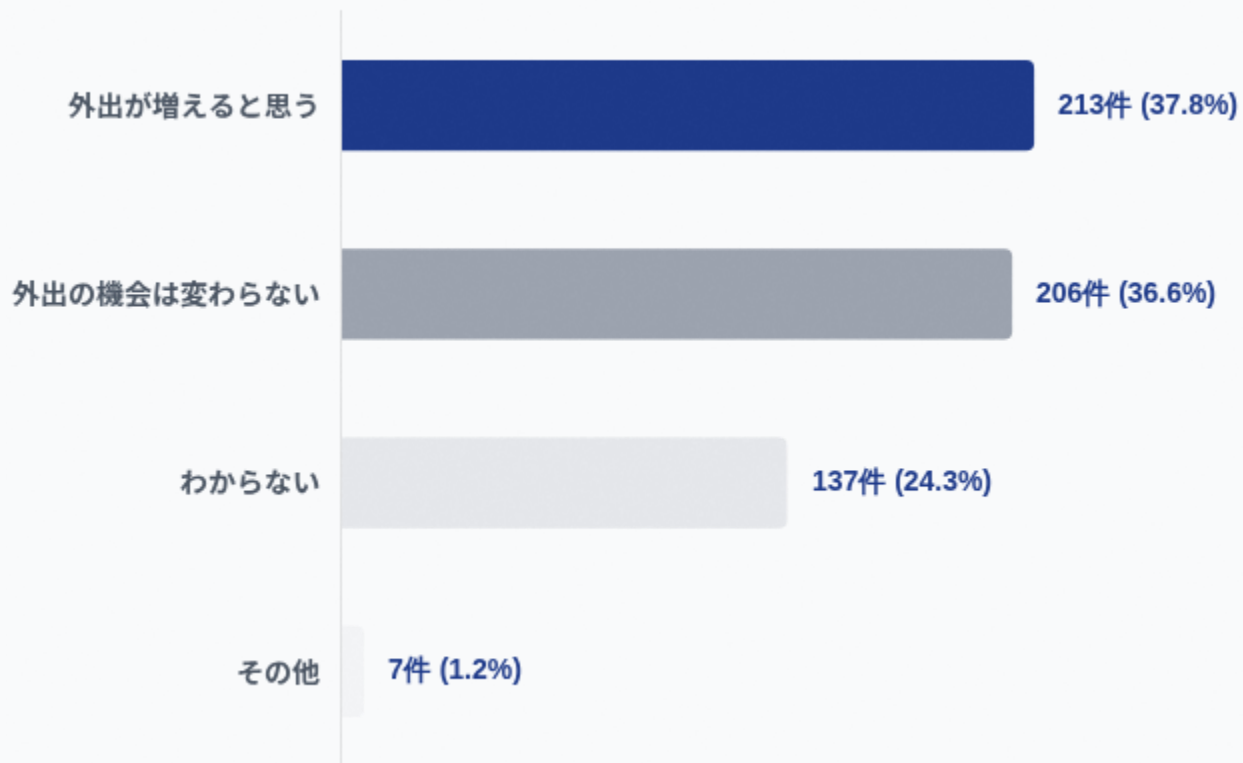
## 💡 改善要望

- 🗨️ 買い物した後荷物があり歩けないから、自宅付近～買い物の循環バスを希望
- 🗨️ 通院でタクシーが必須なので、利用補助を上げてほしい
- 🗨️ コミュニティバスのルート拡充と、免許返納者へのサポート強化
- 🗨️ バスの正しい情報発信と、バスの増便をしてほしい

# 外出の変化

宇和島地区 住民アンケート結果（※問25無回答除く）

問25 「地域公共交通が便利になることでの外出機会の変化」 回答分布



※「便利になれば外出が増えると思う」と回答した割合を中心に分析

## 🕒 若年層での高い期待

「外出が増えると思う」は全体で**37.8%**（213件）。特に**10代**での期待が**51.9%**と最も高く、若年層の潜在的な移動需要がうかがえます。

## 🚌 バス利用者の顕著な反応

バス利用者の外出増加意向は**52.4%**に対し、非利用者は**34.2%**。週1日程度の利用者では**85.7%**に達し、公共交通の利便性向上が利用者の行動変容に直結する可能性が高いことを示しています。

## 👤 免許なし/返納者の期待値が高い

免許なし・返納者における「外出が増える」回答率は**42.8%**。免許保有者（36.3%）と比較して高く、自力移動が困難な層ほど公共交通改善による生活の質の向上を期待しています。

## 📌 特徴：

10代の若年層や交通弱者層を中心に外出増加への期待が高く、特に既存バス利用者へのサービス改善効果が大きいと予測されます。